

平成29年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	学生主体の学修共同グループの構築	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	理学部	
※連携する他学部・機関がある場合は記入		
実施責任者(所属)	川村嘉春 (理学部)	
取組の目標	学生が学生を教えることにより成長する仕組みを誘導するための学生主体の学修共同グループ(学生学修ルームの提供・改善、サイエンスラウンジの運用、自主ゼミの奨励・支援)の構築を目指す。	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生同士の学修上の交流を促す場として、「学生学修ルーム」を提供・改善した。 2. 上級生(サイエンスラウンジ学習指導相談員)が下級生の学習指導・相談・質問に応じる場として、「サイエンスラウンジ」を運用した。 3. 能動的学修意欲をさらに高める取組として、「自主ゼミ」を推奨・支援した。 	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	a. 達成できた	(評価理由) サイエンスラウンジと自主ゼミを通じて、学生の学習に関する意欲・理解度の向上、学習指導相談員の教育能力の向上が図られた。ちなみに学習相談者は延べ 325 名にのぼり、相談の内容も「物理学」「化学」・・・「進路相談」など多岐にわたった。自主ゼミの参加者は延べ 84 名であった。
		(今後の展望) サイエンスラウンジや自主ゼミは継続してこそ、その真価が発揮されるものなので、次年度以降も授業との連携を密にしながら、さらに学習指導相談員に対する事前指導をより充実させて取り組みたい。